

e-モニターアンケート結果報告書

第1回 市川市社会福祉審議会	資料1-2
令和2年7月6日(月)	

- ・アンケート件名 高齢社会の課題に関するアンケート
- ・実施期間 令和元年1月24日(金)～2月4日(火)
- ・有効回答者数 1,186名

アンケート結果の市政への反映状況

本アンケートは、次期「市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の策定に向けた各種調査の一環として、高齢者以外を含む幅広い年齢層の方の状況や考えを把握するために実施しました。以下では、主な項目についてご報告いたします。

【1】高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるためには、地域における支えあいの活動を活性化することが重要です。その効果的な方法を探るため、地域での活動への参加状況と意向を調査しました。

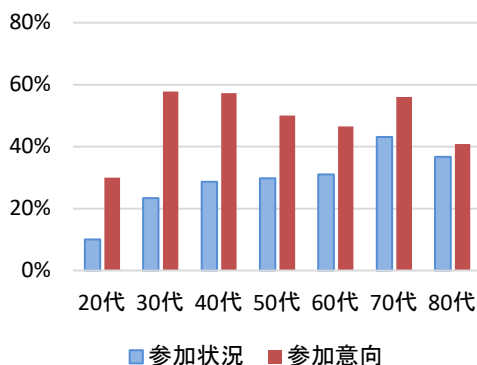
・〔地域活動の参加状況〕については、地域で参加している活動が「特にない」を除く割合(=「参加状況」)が、全体では31%、年代別では、70代が43%と最大であり、次いで80代が37%、40代～60代は約30%、20代は10%でした。

・一方、〔地域活動への参加意向〕については、地域活動への参加意向が「特にない」を除く割合(=「参加意向」)が、20代は30%に留まりますが、30代、40代、70代では約60%と高く、50代、60代が約50%と、やや低くなっています。また、参加意向のある地域活動の内容は、「地域行事(祭りなどの催しもの)」が最も高く、続いて40代までは「子供や親を支援する活動」が高く、50代以上で「高齢者の介護や見守り」がやや高くなっています。

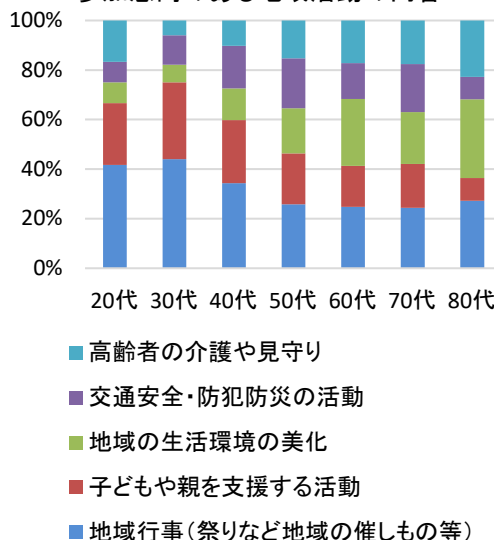
・地域活動の「参加状況」は70代が中心となっていますが、「参加意向」は若い年代でも高いことが分かりました。また、各年代において「参加意向」の高い活動内容の傾向が異なっています。これらを踏まえ、効果的な地域活動参加の働きかけを検討する必要があります。

・また、50代、60代では「参加意向」がやや低くなっていますが、現在、70代が地域活動の中心であることを考えると、数年後の担い手として期待される年代と言えます。地域活動の重要性を積極的に啓発する必要があると考えられます。

地域活動への参加状況と参加意向



参加意向のある地域活動の内容



【2】働きながらの介護、さらに育児や子育てと介護の時期が重なるなど、介護者に過大な負担がかかっているケースがあります。アンケートでは、そうした介護者の実態把握を試みました。

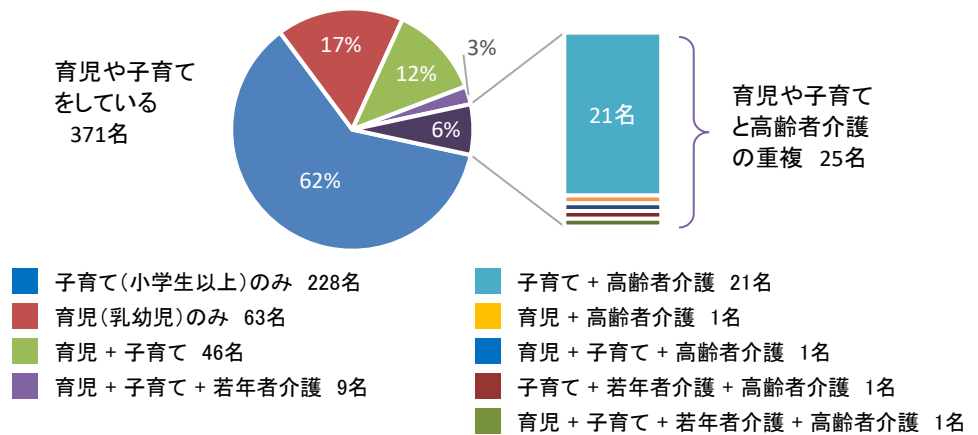
・〔家族等に対する介護や育児の状況〕については、育児(乳幼児)、子育て(小学生以上)、病気や障害がある65歳未満の方及び高齢者の介護を行っている方は、計513名(全回答者1,186名の43%)でした。このうち、高齢者介護者は134名で、勤務状況は、フルタイム勤務が37%、パートタイム勤務が22%、家事や介護に専念している方が23%でした。

・一方、育児や子育てをしている方(371名)のうち、同時に高齢者を介護している方は6.7%(25名)で、最も多いのは子育てとの重複(21名)ですが、育児、育児と子育て、子育てと若年者の介護、育児と子育てと若年者の介護を、重複して行っている方が各1名ずつおり、特に負担が大きいと予想されます。

・育児や子育てと高齢者介護が同時進行している25名の方は、フルタイム勤務が9名、パートタイム勤務が7名と、半数以上の方が勤務しています。年代別では、50代が中心で、次いで40代が多く、20代や30代の方も見られました。

アンケート結果
の市政への
反映状況

育児や子育てと高齢者介護の同時進行



・なお、〔介護や育児が原因の離職〕については、全回答者1,186名のうち、「育児・子育てが理由で仕事を辞めたことがある」147名(12%)、「介護が理由で仕事を辞めたことがある」62名(5%)、「介護と育児・子育てが同時期に重なり、仕事を辞めたことがある」5名(0.4%)、「介護と育児が重なり今、離職しようか悩んでいる」という自由回答もありました。

・独居高齢者の介護や「老老介護」が課題となる一方で、介護者が比較的若い場合においては、育児や子育てと介護、さらに仕事との両立が求められているケースがあり、今後とも増える見込まれています。さらに、病気や障がいがある家族のケアも、同時進行する場合があります。「地域共生社会」の観点から、さらなる実態の把握や、支援策の研究に努めてまいります。

皆様からいただいた貴重なご意見を踏まえ、高齢者施策等に取り組んで参ります。アンケート調査にご協力を賜りまして、ありがとうございました。